

じょうびけし

牛込は定火消発祥の地



明暦三年（一六五七年）に江戸では大きな火事がありました。これを「明暦の大火」といいますが、この火事で江戸の町はほとんど焼けてしまいました。

そこで、今後このような大きな被害が出ないようにと、幕府（四代將軍家綱）は、四人の旗本に命じて「定火消」という消防組織を作りました。そのひとつが、現在の市谷左内町二十一番地および市谷田町一丁目地内に置かれました。

屋敷内には火の見やぐらが建てられ、定火消役の旗本以下、火消人足などが火事に備え出動できるように準備していました。これが現在の消防署の元といえます。

